

CWAJ VVI Newsletter

2017 年春号

目次

1. ごあいさつ ～2017 年の CWAJ 活動予定～
2. 新リーダー、クリスティーン・ベンソンにインタビュー
3. CWAJ 福島支援活動プロジェクト
4. ECG（英会話の集い）～和太鼓体験の報告～
5. 片岡亮太さんのプロフィール紹介とブログ記事の紹介
6. 編集後記

各項目の最初に★印をつけてありますので、項目検索にご利用ください。

CWAJ = College Women's Association of Japan

VVI = Volunteers for the Visually Impaired（視覚障がい者との交流の会）

ECG = English Conversation Gathering（英会話の集い）

FSC=Foreign Students' Circle（外国人留学生との交流の会）

SVI=Scholarship for the Visually Impaired（視覚障害学生奨学金）

HOA = Hands-on Art（ハンズオンアート）

JVDCB = Japan Vocational Development Center for the Blind（日本盲人職能開発センター）

1. ごあいさつ ～2017 年の CWAJ 活動予定～

皆様、お元気ですか。日も長くなり、東京は3月3日現在晴天、梅が咲き、スギ花粉がとんでいます。沖縄に出かけた私の両親は一足早い春を満喫しましたが、北海道や東北や北陸は、まだまだスキーのシーズンです。

CWAJ では毎年1月に人事交代があり、VVI 日本人リーダーは、石井ふみ子（いしいふみこ）から高橋美都子（たかはしみつこ）に、外国人リーダーはルジュータ・パラドゥーカルからクリスティーン・ベンソンに交代しました。春号では新リーダーのクリスティーン・ベンソンを特集し、高橋美都子については次号でご紹介いたします。

ECG のリーダーも交代し、日本人新リーダーは森藤純子（もりとうじゅんこ）、外国人新リーダーはルジュータ・パラドゥーカルになりました。新リーダーたちは、4月1日

(土) に渋谷の渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>にて開催されます「ニュージーランドについて知ろう」という企画を立ち上げ、ニュージーランド出身の CWAJ メンバーと共にさっそく働いております。ニュースレター春号に載せるのはタッチの差で間に合わないので次回でご報告いたします。

CWAJ 現代版画展実行委員会も新メンバー体制で1月から始動しています。第61回目となる今年の CWAJ 現代版画展は、10月24日(火)から29日(日)の6日間にわたって、代官山にあるヒルサイドテラスにて開催されます。ハンズオンアートも併設されますが、詳細につきましては3月現在未定です。次号までお待ちください。

尚、VVI ニュースレターは、引き続き渡邊由香(わたなべゆか)と本村理子(もとむらみちこ)が担当させていただきますので、今年もよろしく願いいたします!

それでは、新 VVI リーダーのクリスティーン・ベンソンのご紹介から参りましょう!

2. 新リーダー、クリスティーン・ベンソンにインタビュー

クリスティーン・ベンソンは、ご主人の転勤で、昨年2月に東京にきました。アメリカでは看護師として病院に勤務していました。昨年6月に CWAJ に入り、すぐに ECG リーダーになり、7月の「ヨガ体験」や11月の「和太鼓体験」の立案企画に携わりましたので、ご存知の方が多いかもかもしれません。

Q1. CWAJ の活動の中で、なぜ一番に VVI に興味を持ったのですか?

— 仕事を辞めて日本に来ましたが、「誰かを助けたい」という気持ちをずっと持ち続けていました。VVI では視覚障がい者に英語を教えたり、ガイドをしたりしていると聞いて、「英語が母国語の看護師」という自分の特性が生かせるのではないかと、希望しました。

Q2. 実際に視覚障がい者と接して、どのように感じましたか?

— とても自立していて、行動的で勇敢、と思いました。興味のあることを見つけて、積極的に出かけて、学びを楽しまれる方ばかりですね。日本の視覚障がい者は、白い杖を使って道の凸凹を読み取りながら歩きますが、アメリカの歩道にはそのような工夫はありません。昨年 ECG ヨガや和太鼓企画を経て、ECG に来てくださるみなさんにできるだけ多くの英語に触れる機会を提供しよう、と改めて思いました。

Q3. 日本に来る前に、日本についてどんなことを知っていましたか?

— ほとんど何も知りませんでした。1980年代のアメリカのテレビ番組で「原宿ガール」を見て、日本の女の子は、おしゃれでばっちりメイクして奇抜なファッションで街を闊歩するんだ、と思っていましたが、違いました（笑）。日本では、どこにいても、みんなきちんとした服装をしていて、アメリカでよく目にする「ゆる過ぎるカジュアル」系の人々はほとんど見かけません。あと、日本食はアメリカのスーパーにもあったからひととおりに知っているつもりだったのですが、あんなものは、日本食のごくごく一部でしかなかった、ということ、東京のスーパーで思い知りました（笑）。今でも日本食の豊富さには圧倒されています。

Q4. 圧倒されたのですか（笑）。どういう点で？

— 例えば、甘いお菓子やスナック菓子の種類の多さです。すごい数です。飲み物の種類も多いです。お茶やウォーター系の飲み物などは生まれて初めて見ました。アメリカでソフトドリンクといったら、炭酸系かフルーツや野菜のジュースしかありません。そうそう、ポカリ・スウェットというスポーツ・ドリンクがあるでしょ。美味しい飲み物ですが、あのネーミングは衝撃です。飲み物なのに、「スウェット（汗）」ですから来日当初は買えなかったです（笑）。見たことのない野菜や魚、きれいな果物にも圧倒されました。いろいろ買い込んで試食しますが、どれもとても美味しい。マイルドな味付けがとても良いし、着色も控えめなところもとても良いです。アメリカの食べ物は、極端に甘かったり辛かったりだし、着色も過剰です。食材本来の味を最大に生かす日本の食文化は奥深い、と思います。

Q5. 休日はどのように過ごされていますか？

— 今年の冬は、日帰りで上越のガーラでスキーをしました。楽しかったです。わたしはコロラド出身ですから、小さい頃から冬はスキーをしていました。北海道ですか？まだ行ったことないです。行ってみたいです。旅行先に選ぶのは、東南アジア方面が多いです。東南アジアの観光地は英語の案内が多く、あちこちで無料 Wi-Fi が使えます。日本の観光地は、東南アジアに比べると英語表記も無料 Wi-Fi のとんでいる場所も少ないですね。でも、日本ではネット環境が無くてもあまり困りません。通りすがりの人がさっと手を貸して、親身になって助けてくれますから。おかげさまで、日本はとても住みやすいです。

Q6. 「あなたは結婚し、仕事に満足し、今の土地に定住して生活に何の不平もなく幸せに暮らしている」、という状況を仮想してください。そんなあなたに赤ちゃんができました。

さて、あなたはこれからの生活をどのように設計しますか？どのような人生を送りたい、と思いますか？

— タイムリーな質問ですね。実はわたし、現在妊娠中なんです。赤ちゃんが生まれたらどんなふうに忙しくなるのか、今はあまり想像がつかないのですが、そうですねえ、赤ちゃんが生まれるまでできるだけ仕事を続け、生まれた後も、6か月くらいしたら仕事に戻りたい、かな。わたしは看護師なので常に求人があり、一旦離職したら戻れない、という心配は無いのですが、キャリアを考えると長期離脱はしたくないです。仕事を辞める選択ですか？ありません（きっぱり）。こどもはだいすきですが、成長すれば親元から離れていきます。でも仕事のキャリアは積み重なって残ります。わたしは自立していきたい。そのためにも復職は早い方がいいのです。

Q7. アメリカでは、赤ちゃんを預ける場所はすぐに見つかりますか？昨今の日本では、保育園が足りなくて、お母さんたちは悲鳴を上げています。

— アメリカの場合、こどもの預け先は、ナーサリー、デイ・ケア、プリスクール、キンダーガーデンなどがあり、多くの場合、お母さんたちはこれらをこどもの成長に合わせて利用しながら仕事を続けています。人口が急に増加した、などの理由がない限り、預け先が不足することはありません。子どもの年齢によって、週に2~3回、半日のみしか預けられないこともあります。そういう場合は、自分の勤務の方をフレキシブルにして対応します。フルタイムで仕事をしたいなら、家政婦やベビーシッターを通い、または住み込みで雇う、という選択肢もあります。

Q8. アメリカでは、夫は育児に協力的ですか？

— わたしの知る限りでは、協力的な人が多いです。こどもを迎えに行く時間になったら退社して、家事も手伝っている、と思います。

Q9. 日本の社会も変わりつつあるけれど、こと職場に関しては、ひとりで先に退社するのは勇気が要る、と聞きます。アメリカにはそういうことはありませんか？

— 周辺との調和を重視するのが日本の文化だとしたら、アメリカの文化は、「多様性」です。自分の生き方は自分で決めるし、それを認めてもらうために堂々と主張をします。遠慮はしません。対立するから自分の希望を抑え込む、というのは解決になりません。育児でも家事でも仕事でも、何をどう手伝ってもらいたいかを判りやすく提示できたら、き

っとサポートを得られます・・・まあ、移民社会ですから、安くて良質の労働力がいくらでもあるから選択肢が広い、とも言えますが。

— ありがとうございます。

インタビューアー 渡邊由香 (わたなべゆか)

3. CWAJ 福島支援プロジェクト

CWAJ の福島支援プロジェクトは立ち上げ後 6 年目を迎え、この度、福島県知事より感謝状を頂くことになりました。手作りのささやかな一助を積み重ねただけなのですが、思いがけない名誉で有り難いことです。CWAJ の福島支援プロジェクトについて、プロジェクトチームメンバーの吉村啓子（よしむらけいこ）がご紹介します。

2011 年 3 月 11 日、東北地方太平洋沖地震とそれによって発生した津波は東日本に甚大な被害をもたらしました。福島では福島第一原子力発電所内の 1～5 号機で電源が喪失し、原子炉を冷却できなくなったことから炉心溶融（メルトダウン）が発生。放射性物質の漏洩を伴う重大原子力事故に発展していきました。

翌月、CWAJ は福島に行き、避難所で被災者の心のケアに当たった先生方から直接お話を伺い、何かお役に立てることはないかと何度も検討しました。そして、「福島支援プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトの名の下、2012 年 1 月に相馬市にオープンした“こころのケアセンターなごみ”に送迎用のリフト付きヴァンを寄贈し、その後も支援を続けています。

同年 4 月、被災した学生の学びをサポートしようと、福島県立医科大学看護学科の学生を対象とした給付型の CWAJ 福島被災学生奨学金を創設しました。この制度の下、毎年 2～3 名の学生に奨学金を授与しています。奨学金を受けた学生たちは国家試験を経て看護師や保健師となって地域の医療を支え、被災者の支援をしています。

CWAJ 版画展から発展した支援もあります。版画家の方々から「被災地を応援したい」という温かい気持ちを頂き、多摩美術大学の海老塚耕一教授のご指導と多摩美術大学の協力のもと、福島アート・プロジェクト「あそびじゅつ」を 2014 年に立ち上げました。遊びがそのままアートになるような体験をするイベントを福島市、須賀川市、相馬市などの各市で開催し、CWAJ ボランティアも創作を見守ったり手伝ったりしながら福島の方々や子供たちとのアート体験を楽しみます。

子供の英語教育に 40 年以上携わってきた CWAJ ならではのキャリアを生かした支援もあります。2014 年に立ち上げた「福島子供のための英語プログラム」です。イースター

やクリスマスといった今では日本でもお馴染みとなった華やかな季節行事を紹介しながら英語圏の文化に触れてもらったり、英語が母国語の外国人メンバーによる絵本の読み聞かせ、英語を使った歌やゲームなどを組み入れたプログラム構成で、郡山市でこどもたちに生きた英語に触れる機会を年に数回提供しています。

震災の記憶を引継ぎ、福島と CWAJ の絆を未来につなげることを願ってやみません。

CWAJ 福島支援プロジェクトチームメンバー 吉村啓子（よしむらけいこ）

4. ECG (英会話の集い)～和太鼓体験の報告～

11月19日（土）午後、ECG 和太鼓の集いが広尾の麻布中高生プラザにて開催され、VI フレンズ 24名、ガイド・友人 4名、VVI からボランティア 20名が参加しました。

マレーシア、アルゼンチン、中国からの留学生 5名も参加。付き添いで FSC メンバー 8名も加わり、ECG 和太鼓の集いは総勢 62名のにぎやかな集いとなりました。広尾は学生や外国人駐在家族が行き交うおしゃれな街です。わたしたちは土曜の賑やかな街角を通り抜け、紅葉のきれいな南部坂をゆっくりと上りながら開催場所に向かいました。開催場所には、椅子とマットが並べられていました。マットは子供たち用でした。職員さんがホールに行って声掛けをしたら、たくさんのこどもたちがやってきて、マットの上に並んで座りました。お父さんやお母さんもいっしょに入ってきたので、大人数になりました。

和太鼓演奏者の片岡亮太（かたおかりょうた）さんはにこにこしながら現れ、現れたとたんその場の雰囲気ですっと溶け込みました。引き締まった体型は鍛え抜かれたアスリートみたいで、膝の下と足首には鈴を巻き付けていました。片岡亮太さんは、両手にばちを握って上半身を反らしたりかがんだりしながら並んだ太鼓をたたき、たたきながら足を振り上げて鈴を鳴らします。そしてよく通る声で歌います。躍動する片岡さんから活気があふれ出てきて、わたしたちのお腹や足に振動が伝わってきました。片岡亮太さんの演奏に合わせて、わたしたちも、「かんからり～、かんからり！」と掛け声を返しました。

この日は、三宅島に伝わる木やり歌から始まり、2番目の演目が「寛伽羅麗（かんからり）」でした。これは、片岡亮太さんの奥様の山村優子（やまむらゆうこ）さんによるオリジナル曲です。奥様は著名なジャズ・フレンチホルン奏者で、とあるラジオ番組によると、片岡亮太さんはたいへんな愛妻家でもあるそうです。3番目、4番目の演目は、片岡亮太さんオリジナルの作品で、「ライオン」は、野生のライオンの力強さが伝わってきました。「大地」は、目を閉じて聴いていると、赤い土と青い空が広がっていくようなイメージが浮かびました。最後の演目は、「パナケア」。パナケアとは、ヨーロッパの神話の中

で、「万物を癒す呪文」と言われている言葉だそうです。わたしたちは片岡亮太さんが打ち出す音に合わせて手拍子をするうちに、手と心が温かくなりました。

演奏が終わるとこどもたちは退場。その後は片岡亮太さんの指導の下、わたしたちは交代でいろいろな打楽器に触れさせていただき、合奏をしました。打楽器は、どれも美しい形をしていました。音色は心地よく、その場の雰囲気華やかになります。音の溢れる空間は、打楽器に触れずにおしゃべりを楽しんでいる年配の参加者たちにとっても居心地の良い空間でした。

ECG 和太鼓体験はたいへん楽しく、多くの参加者さんからたくさんのお礼のメールをいただきました。片岡亮太さんは英語でトークし、外国人留学生からの質問にも英語で答えました。わたしたちも英語で質問をしたり、それぞれの自己紹介を英語でしたりしました。

CWAJ ボランティア 渡邊由香（わたなべゆか）

5. 片岡亮太さんのプロフィール紹介とブログ記事の紹介

和太鼓演奏家の片岡亮太さん（以降片岡さん）は、生まれつき弱視でしたが、10歳の時に網膜剥離になり、完全に視力を失いました。その後通った盲学校には知的なハンディも併せ持つ生徒がたくさんいたそうです。重度の知的障がいも併せ持つ友人たちが社会で“なんだかわからない人たち”という扱いを受ける場に居合わせるうちに、片岡さんは、視力のない自分がどこまで力になれるかは判らないけれど、彼らの生活や家族の支援ができればよいな、と思って上智大学の社会福祉学科に進みました。大学で社会福祉士の資格を取得、卒業時は首席。盲学校時代に出会った和太鼓でプロを目指す決意をし、以来、和太鼓演奏家の道を邁進中です(参考メディア：「盲目の和太鼓演者・片岡亮太が上智大学で勉強したこと」 J-WAVE NEWS 2016年5月11日 <http://www.j-wave.co.jp/blog/news/2016/05/post-1558.html>、「シリーズ・可能性を切りひらく、一歩ずつ前へ！—太鼓奏者・片岡亮太さん—」NHK福祉ポータルハートネット 2014年1月19日 <http://www.nhk.or.jp/heart-net/shikaku/backnumber/2014/140119.html>)。

演奏と演奏の間にトークする片岡さんは、明るくて優しく気さくですが、プロの音楽家としての片岡さんは、パワフルな演奏を可能にする日々のトレーニングを欠かしません。積み上げた体力は演奏する度に使い切ります。いつも、「今日のこの演奏が最後の演奏」という気持ちでステージに立つのだそうです。

人々を励まし、夢を与え続ける片岡さんがご自身について書かれた記事を見つけましたので、ご本人の許可をいただき、下記に記載いたしました。タイトルは、「バランス」。片岡さんのアメーバブログ、「めざせ!!ファンキーグルーヴ“千里の道も一歩から♪♪”」に2017年3月2日にアップされたものです。

○バランス

先日 **TWITTER** で、我が家の日常として、消灯した室内でも自分は普段通りに動けるから、優子女史が眠っていたとしても、それを妨げることなく作業ができると書いたら、思いの外多くの反響をいただいた。

こういうことは比較的によくある。点字を読める事、白杖や視覚以外の感覚を利用して歩けること等、視覚障害者の当たり前が「すごい」と思われるのだ。

でもそれは、僕にとって目を開けば様々なものを見て、読んで、把握できる事が日常とあまりにも遠く離れた「奇跡」のようなものである事とさほど変わらない。点字を読めなかった過去もあるし、一人で歩けなかった過去もあるから、そこからの苦労を思えば、確かに「すごい」のかもしれないが、今の自分にとって当たり前であることに変わりはない。

ただ怖いのは、そうやってすごいと言われているうちに、自分の当たり前が本当に優れた何かなのではないかと思えてしまいそうになることだ。そんな風に自分を見てしまったら確実にバランスを崩すだろうし、道を踏み外すだろうと僕は思っている。

どれだけ周囲からすごいと思われる事をしていたとしても、それが自分の当たり前なのなら、その時点では僕は何もしていないのと同じ。大切なのはその先。自分にとっての当たり前の中から、本当に価値があるかもしれない何かを紡ぎ出したり、見つけ出せたりする事、それができて初めて僕は「表現」をしたのだと言える段階にたどり着く。僕はこれまで表現をしてきただろうか？そしてこれからはどうだろうか？

少し時間に余裕があるこの時期はそんな事をぼんやりと考える。これが僕のバランスの取り方であり、障害とともに生きながら表現を生業にするものとしての自分のスタンスだ。

(参考メディア:<http://ameblo.jp/funky-ryota-groove/entry12252707186.html>)

★6. 編集後記

片岡亮太さんは、強靱な体力と日常の先を見つめる研ぎ澄まされた感性で音楽を創造します。VVI新リーダーのクリスティーン・ベンソンは、今はVVIの活動に注力していますが、子育てをしながら仕事を続ける生活を近い未来に思い描いています。CWAJ福島支援プロジェクト立ち上げメンバーの吉村啓子は、CWAJの全活動に精通していて、いつも

全力で仕事をやり遂げます。2017 年もたくさんの良い出会いに恵まれますよう、わたしたちも前を向いて、感謝の気持ちを忘れずに日々を生きよう、と思います。今年も ECG や JVDCB、HOA や SVI 選考、筑波大学附属視覚特別支援学校での英検疑似体験などの企画を通して、皆様にお目にかかれますことを楽しみにしております！

CWAJ VVI ニュースレターは、CWAJ ホームページでもお読みいただけます。

<http://www.cwaj.org/Education/vvi-j.html>

皆さまのご感想を、ぜひ下記の連絡先までお寄せください。

連絡先が変わった方も、ぜひ下記までご一報ください。

エッセイを書いてくださる方も、随時大募集中です。

(連絡先) VolunteersVI@cwaj.org

編集担当：渡邊由香（わたなべゆか）

発送担当：本村理子（もとむらみちこ）